

24/8/5 石垣部会

名古屋市民オンブズマンによるメモ

報道等 写真・ビデオ撮影 開会後から出席者紹介まで

10:00

岡田保存整備課長：はじめる

蜂谷所長：おはよう

2つ 本丸搦め手

石垣保存方針

よろしく

岡田課長：出席者紹介

北垣、赤羽、宮武、西形

尾崎、和田

教育委員会、名古屋城総合事務所

千田 遅れて到着

梶原欠席

報道等 写真・ビデオ撮影はこれまで

資料の確認

進行に一任

北垣：おはよう

議題 | 説明を

名古屋城：本丸搦手周辺石垣の修復について

(1) 経緯

次ページ フローチャート (案)

(3) 今後設置について

宮武：(3) に行く前にまずはチャートを議論した方が

名古屋城：そのようにする

10:14

北垣：報告ありがとう

2頁を議論してから

宮武：のっけから長くなる

難しい 前回委員会 避けられない

全国の石垣修理 背面どう扱っていいかわからない石垣 フローチャートない

全国に影響に与える

「本丸石垣」だけではない

大天守の背面にもかかわる

ひざ元に築石、堀の中 何かの理由で下に落ちた

修理どうするか

スタンダードが変わってはいけない

作った人 1人 組織でもんだか？ 担当レベル

作ったまま出した？

名古屋城：私が作ったが、内部で相談した

宮武：決裁に回す前 組織で議論したか

やっていない 素人が見てもおかしいところがある

気づかない点がある

岡田：私もチェックはしたが、至らない点があればご指摘

宮武：目的 石工に頼まなくても職員が8-9割絞れないと意味がない

「石の面がある」「控え長が相当にある」判定できるか？

判定1自分たちが作る前提で

「重大な損傷」はわかる

基準がない 石の面=控え長がある

全体の長軸の長さと同様か1.何倍か

「相当」？

後ろ「控えの長さ」しか書いていない 前の面長は？

歪な形状 直方体の形状

逆石 ジャガイモ切る

判定2 「加工しないで使う」がない

フローチャートとしておかしい

築石として再利用しない

他の場所で使う？ 上にものを置かない 天端として

石垣修理以外の整備 側溝？疑似表示の礎石？

具体性 想定

「非加工が原則」書いていない

判定3 悩んだ

刻印、墨書を消失せずに再利用＝歴史性を担保する

慶長の墨書 天和の時後ろ？築石？

使うではなく保管する？使っているのか？

時代性を付加することに

「一定の機能を期待し存置された構造体」意味が分からない

いっぱいある フローチャートとしての疑問

そもそも使えるの？客観的にやれるのか？

もんだうえで部会に出して 時間が無くなる

北垣：ありがとう

名古屋城：貴重なご意見ありがとう

認識の共有をしたい 判定1 定性的 フローチャートとして足りない

控え長 内部的に 1メートル

再利用はそこをターゲット 1メートルを基準に60, 1700

歪な形状 直方体

宮武：前面の何%か

6メートルでも前が8メートルなら短い

名古屋城：そういう風で進めていった

加工の有無 最小限の加工 「ゼロを含む」訂正

「一定の機能を評価し」他文献から引っ張った

宮武：刻印のある石をどうするか

事務局には任せられない

北垣：事務局にはわかりにくい

過去に残された文化財 時代を示す痕跡がある

しっかり残していく視点がなくてはまずい

和田：控え長相当 撤去前 前の石と同じくらいの長さ
大前提として、現場から出てきた石は使ってあげたい
刻印があるときに使っていいか？
加工することで刻印が消えては絶対あってはならない
見える形で再利用？ないことはない
使わなかった場合 見える場所で展示できるか？
積んだ方が石が喜ぶ
慶長の石

宮武：感覚の共有
平安時代の仏像修理 いろんなどころ修理
無茶苦茶古い木が出てきた はめていいのか？ 鎌倉時代の腕に
ちょうどいいから入れていいか
刻印 時代ごとに形が違う
「慶長6年」天和の石垣に入れていいのか

北垣：ありがとう

千田：難しい問題
世界遺産 パルテノン神殿
今は厳格な形で修復
かつては落ちている部材を考慮せずに再利用 切りなおして
本来あるべき石材 歴史の資料性はほとんど失われた
「そこにあるからといって、属性をなくして積んだのは適切ではなかった」
慶長の石材が、そのまま背面、落ちている
形そのものに創建期 資料性
石材加工技術が進んだとき 積んでいいのか
墨書、刻印 適切に保護したうえで説明できるか
長期的 「令和の修理のときはひどいことをやった」言われかねない
使わなければ、新補石材
残したはいいが、「草むらに落ちているのがそうです」
二の丸北側 石を置いている
「名古屋城で使っていた石」看板 置き方はめちゃくちゃ 固めておいた
歴史的資料で大事なら、維持管理 問題が発生している
フローチャート 再利用しない「保管し、～」ちゃんとできるか

本来石置き場ではないところに石を置く

どこが適切な場所？

厳密に石材の資料性 非常に難しい

判定1 「専門的知見 石工」よくない

センターがイニシアティブをもって、石工の知見を得てやる

全部の再利用 石工にゆだねることに

判定2 「石材加工せずに使う」あるべき

北垣：赤羽先生

赤羽：背面石材を再利用する 承認した

フローチャート

前回の会議 再利用 いいのかどうか頭にこびりついていた

そもそも検出された石 どういう経緯でそうなっているのかわかりにくい

創建期 作られたものが天和の時に使わなかった 置き去りに

理由がわからないままに検討すること いいのかな

背面 築石に使わない 現地に埋め戻すのも一つ

お尋ねしたい 背面から出てきた石を再利用することは欠かせないことか

新しい石を持ってくるとか

数値的なもの プラスマイナス

再利用は絶対必要なのか

北垣：きわめて難解な問題

センターが主体的に判断 大事

できるかできないかより、その中でご意見

適宜入れながらその場に応じた対応策が必要

宮武：再利用したいわけではない

そのまま元に戻すと危ない 栗の中に

つかえるのなら使おう

使うのが正解なのか、とっておけるのなら取っておきたい 現実的？

慶長のもの 刻印という名札がついているのがやっかい

刻印がなければ黙って使えばいい

西形：最初出てきたという話

列をなしていたか

角石の後ろにあるか

知識の中では、点在の石が栗石の安定化に寄与するとは考えられなかった
地震動 悪影響を及ぼす可能性 想像 工学的には証明されていない

許されるのであれば除去したほうがよい

それを使うかどうかは別

おいておく意義はみあたらない

宮武：使わざるを得ないか、保管するか

北垣：いろいろ出てくると思う

これから新たな石材が出てくると、議論しないといけない

その都度最小限の残すか残さないか 大まかな基準を出して、

全部りっしきれるものではない

センター中心に検討していただく

部会のメンバーも活用してやっていく

これでいけるというものはない

宮武：石垣の手引書 曖昧にしている部分

肥前名護屋城、安土城

「落ちている石どうしますか」

明示しているところがないと思う

構成物の要素を近い目的に再利用していいかは議論していない

千田：難しい

交通整理 どういう石材を再利用

そもそも石垣の構造悪影響 撤去する

名古屋城が特別史跡 天下普請 西国の大名が集まって作った

石垣刻印が多い

考え方 真正性を守る 「刻印は再利用としては使わない」

刻印、墨書

見つかった石で、構造物に影響を与えないのなら元に戻す

判定！ 控え長 元の石との関係

「刻印があるのは資料として使う」位置付けていいか？議論が必要

フローチャートで困る どちらに判定すべき？

部会の議論で使う使わない

宮武先生納得されていない？

宮武：千田先生の組み立ての方法 異論がない
赤羽先生 すっきりしない
旧材の再利用 共通認識がない
文化庁に聞いてみたい 多分答えられない

千田：多分丸のみでしょう

北垣：赤羽先生ご意見は

赤羽：難しい

認識したことは、検出された石材 石垣の安全性
埋戻しはできない 撤去するは理解した
2 番目 撤去した石をどうするか
再利用ありきではいけないと思う
背面に放置された石材 創建からの文化的価値
石をどう保存するか
築石としては再利用しない方がいいと思う
3 番目 搦め手上の最上面 石材を並べたり、
矢穴、墨書、刻印 知っていただくことも活用
「撤去」「保管」「活用」

北垣：結論が出にくい問題

やっぱり必要なものは保管する
活用を考える
文化財としてどう使えるものになるのかならないのか しっかり検討を

千田：問題になるのは刻印があるもの

パルテノン神殿 再加工して積むのはどうか 真正性は問題
刻印 慶長期の石垣 再利用して積みなおしている
刻印あっても再加工せずに再利用できれば組み込んでもいいのでは
注2 「背面検出」わかるように
チャートの中に明記して
刻印あると、どこかにどうかしないと
空堀の底に並べればいいのか？
効率と使わなければ新補石材 コストがかかってくる

総合的に判断すると フローチャートを厳格に作って 現実的
全国の城 背面その他から見つかった石 議論せずに適当に割って使ってい
る

刻印 歴史性重要なもの
他と違って厳格にしては

北垣：ありがとう

確実な話 刻印石材は過去の歴史を反映
年号が古い慶長だけでなく、歴史性 有効活用する方向で進める
一定方向の考え方が煮詰まりつつある気がする

宮武：重い話

世界遺産 日本の議論
木造建築 法隆寺の議論
頭のとっぺんから
世界標準ではない
部材を足して足して
同じ技術があるから通った
石垣 400年そのものではなくパッチワーク
姫路城大天守閣 昭和、江戸中期部材 取り替え、再利用
刻印 他の部材はわからないが刻印はわかる
世界標準の歴史遺産 OKが出されている
一定の機能 部材 いつのもの はっきり出ている
いま入れるのか？
石垣という構造物 いびつな解釈になる
熊本 下の石垣の上に重要文化財を載せる
名古屋城 簡単にはいかない
私の個人意見 年代がわかって、元の位置にはまっていない
別途保管した方がいいのでは
上に展示して保管するとか
搦め手だけでなく、ほかでもある
転石、落石
履歴 資料化して残していくのはどうか

西形：現実に墨書、刻印の石はどれくらい？

名古屋城：背面検出 200 以上
いくつかある

北垣：議論があるが、3 ページ以降の議論がある
資料 2 が残っている
どうするか
金沢城でも、石垣の石面と控えの問題 文献で石図がある
石垣が出来上がっていく過程 石の大きさ 高さに合わせる
寛永年間以降
そういう事例もある

千田：具体的なところ
5 枚目 001-1983 刻印
写真 4 正面側 カットする 刻印そのものは消失しない
再加工無しで使えれば？ よほどのことがないかぎりできない
今日の議論 本質的な価値→再利用しない
今日はそれでいいのでは

北垣：棟梁の言葉 刻印石材 本質的な価値
残した方がいいですね 結論
今日の話 大事な課題の一つ 方向性が出てきた
最初の項目 おきたいと思う
5 分休憩 2 に移る

岡田：再開は 11:20 から
11:14

11:22

北垣：資料 2 に移りたい

名古屋城：保存方針策定について
多くのご意見いただいた
進め方の段階から再検討
石垣評価の方法
調査の対象：近世－現代築造
近世・近代 図 1 赤塗 358 面 予備診断を実施したい

図1青 現代 予備診断はしないがカルテは作りたい
石垣評価方法 前回の部会 天守台保存方針にならって独自評価
→昨年度 文化庁予備診断指針が出された
石垣再評価したい
東南隅櫓南 02IH例示
7ページ目 落とし込む
予備診断評価者 名古屋市学芸員、文石協先生 原案
石垣部会、石工に現地指導してもらって
進め方 石垣保存方針 予備診断→石垣部会で共有
安全対策
導線上 平行して検討したい
今後のスケジュール 1頁左下表のとおり
今年度再評価 後半で議論
来年度具体化

11:29

北垣：方針について

千田：図2 三の丸の石垣等
愛知県体育館 色がついている

名古屋城：無告示地区も色を付けた

千田：誤解を招く 県体育館が悪い奴に見える

北垣：どうするのか

名古屋城：修正する

宮武：今日の議論で何が決まる？

方針の再確認

千田先生の指摘

370面

ハザードマップを作る基礎資料

平行して 現状の導線の確認

保存活用計画 のちのちどうするのか

ゾーニング 整備が進めば人が来るかも
出入り 観光客だけでなくステークホルダー
よりつくか、
崩れても人に当たらなければ
石垣カルテ フォーマット議論した
名古屋 成果品を今後検討
文化庁 5ページ予備診断書 全ての城にきれいには当てはまらない
石垣カルテの項目とはあてはまらない
基本情報 上から3段目 積み方 算木積み、その他
何を想定して？
縦石？ 中世？ 明治、大正？
あわない
名古屋に適用 無理やりやらなくても
診断項目 数値化するのは
文化財サイドで検討する余地がある 今年になって議論
文石協 先月の総会 これに基づく伝統的技術とすり合わせ
これからします
先に進めるなら参考資料として
現状項目 加点 適用してもいいが、石垣カルテ 無理やり
人が近づくのか、そうでないのか割り出しが必要
優先順位が出てくる
離す、ネットをかける、立ち入り禁止にする
予算、マンパワー
平行して 3つレイヤー
ラグタイムも少なく済む

北垣：ありがとう

西形：宮武先生おっしゃったとおり
耐震マニュアル 出てきたのは今年になってから
文化財側の対応 各お城で考える
書いてあることが全てではない 対応は自由度がある
基本情報 本質的に予備診断
石垣カルテが優先
試験的な例 予備診断したと理解していいか
基礎点、平常点 数字だけなら工評価

アとイならOK
ウとエなら黄色
オとカなら赤色
基礎点は変えづらい
変状点で変わってくる
7ページの上 間詰石が抜けている
進行状況 結果に従って石垣がエ評価になるのではなく、
間詰石が抜けている 2点
→修復すれば0点に
評価がイ評価になる
将来の修復の順位付け なんとかア、イ評価にもっていけばいい
「ダメだから基礎診断実施する必要」すぐする必要がない
13メートル 基礎診断実施したらアウト
次のステップ考えないと
エ評価をイ評価対策 早急に考えては

北垣：ありがとう

宮武：さきほどは進め方の話
解釈の仕方 予備診断書 点数加算
現実的に全国の城でやった
5ページ 石垣タイプ わかるのがどれくらいあるのか
・外観からの予備診断
・内部の予備診断
ほとんどは⑨
結果的にもものすごく危ない
半石塁？

西形：そこまではない
石垣の長さに比べて幅が狭い 堤防のようなもの
半石塁 付随しているもの
どの比率なのか

宮武：多門櫓 幅6メートル 長さ20メートル
曲輪の小型 選ぶ方も困る
3メートルL字型

石塁か半石塁か
点数をつけよう 悩む 恣意的
100%そのまま？
フレキシビリティ
西形先生に工学的に検討
やったら最悪の点数しかでない？
履歴 修理した履歴 こだわった方がいい
相対的 幕末-近現代 矮小化されている
能登震災 崩れたのは江戸中期以降
名古屋城 大正時代などもある
ボーリングはどの程度あるのか？

名古屋城：ボーリング 全体会議で諮りたい
天守関係 地盤やった
御深井丸 少ない

宮武：全体 プロットして
地盤不明

名古屋城：次回提示したい

西形：方針 評価者はあくまでも名古屋城総合事務所 大切
必ず主体に その後部会で議論して最終的に確定

北垣：事務局 しっかり受け止めて

千田：資料1図の1
本丸搦め手馬出南 土橋の東 石垣はないでよいか

名古屋城：ある

千田：図にない
超重要な図
担当者が書類を作るのではなく、組織としてチェックして
西の丸空堀 金シャチ横丁 道路取り合い
石垣はない？

名古屋城：ない

千田：土橋のところも石垣はない？

二の丸 愛知県体育館 裾野 のり面の下に
写真で見るとあるが

名古屋城：失礼しました

千田：文化庁の意図 人と接するところ 石垣

地震の時 人命影響が大きい
適切な対策＋史跡の本質的価値
対象としている範囲 抜けが多い
内面 新しい石積み 人命にかかわる
近世、近代、現代に分けた理由は？

名古屋城：現代 予備診断はしない

予備診断 近世、近代を対象にする
現代の擁壁 中はコンクリ構造物
別の判断だから

千田：7月だけでも松山城 大規模土砂崩れ3名死亡

鳥取城、彦根城石垣崩れた 上田城がけ崩れ
文化庁カルテに対応 重要
管理団体としてどういったところ 情報を持っていて、
市民やお客様の安全を確保するか
昨今気候変動 非常に大事になる
「文化庁のフォーマットに従った」
名古屋市役所として、それでいいか ご検討を
いくつか図示すべきところ抜けている 遺憾

名古屋城：基礎資料抜けていて申し訳ない

現地確認して抜けがないようにしたい
現代石垣 変えた
予備診断しない
石垣カルテ 現状の記録はとる

千田：正門の東側 石垣
相当な急角度 これでもいいのか？
どう危機を感じているのか？
金シャチ横丁近接 土手の上を通る
抜けがないようにお願い

宮武：提案 こういうのなしで自分の目で色付けたら？
数値 レイヤーかける
たいていは一致する
いかない部分がでる
現代は落ちる
人と接触する石製
金沢城崩れた 明治時代に火薬庫にするトンネル
危ない箇所の見落としが少ない
石垣カルテ情報に基づくと見落としが多いと思う
職員が見知っているのか 行ったことがないように

北垣：きわめて重要な指摘
職員全体が意思をもって見ていく
図2書き換え
今のような指摘 反映した ぜひ変えて

宮武：スケジュールは？
いつぐらいまでに仕上げる？

名古屋城：1頁下の表 最終的な

宮武：2年でやるのか 急がないと
作業をテロップして
机上でできる部分 現場回らないといけない部分
スキームを作って

北垣：令和6年度、7年度
何か意見は？
2年間 可及的速やかにやっていただく必要がある

主にスケジュール

千田：スケジュール

部会が少ない たどり着けるか？

たどり着いた先 文化庁 基本調査のカルテ

点数付ける 数値的に危ない 出てくる

名古屋城 石垣のすぐそばを通らないといけない

枡形、本丸御殿、診断として厳しい結果になる？鶴の首 明確になってくる

対策をしないといけない

対策 にわかに 国の特別史跡内 難しい

伊予松山城問題 行政として厳しいことになりかねない

危ないところ 石垣が崩れる 文化財毀損+人命に影響

基礎診断 分かっていたのにしなかった

ちょっと難しいと言わざるを得ない

速いテンポで進めない

次の段階 速やかに

予算措置 文化庁との相談

部会との相談 全体での議論

伊予松山城 真に対策が必要 「文化庁などの手続きを飛ばしてでもやるべきだった」指摘も

諸刃の刃 名古屋城総合事務所 逃げ場がなくなる調査

後半を意識しながら判定を

北垣：委員会これだけしかない

あちこち起こっている

これから具体的対応 あとがない

時間的余裕がない まず内部でよくよくやれるところからやっていく必要が

尾崎：全体を通して

2つ大きな議題 先生方すごい意見が出た

背面石材 難しい問題

搦め手馬出だけでなく基準になってくる

まずは交通整理していただいて

刻印の有無がポイント ないものは先生のご意見 どう利用するか

あるもの 使用しない 取り入れて

保存方針策定 スケジュール気になる

かなり全部石垣 面数が多い 委員会回数少ない

2年でできる? もう少し具体的なスケジュールを考えては

負担になってできない

急げ急げであることは間違いない

北垣：だいたいを出していただいた

事務局にお返ししたい

岡田：ありがとう

次回継続

本日は以上

12:12